海を臨む天空の城

国指定史跡
米子城跡

米子市の中心地湊山に築かれた米子城は、山頂に五重の天守閣と四重の副天守閣（四重櫓）を持ち、「山陰随一の名城」とも称される壮麗な城であったといわれています。

現在、建物は失われていますが、石垣などは往時の姿をよくとどめており、天守跡からは秀峰大山、日本海、市街地、中海などが一望できます。

平成十八年（２００６年）に、本丸、二の丸などが国史跡に指定されました

米子市教育委員会

米子城の歴史

戦国時代の米子城は、室町時代、応仁の乱の頃の応仁～文明年間（1467年～1487年）に山名宗之により砦として築かれたことに始まると伝えられます。

石垣を備えた本格的な城としては、戦国時代末期の天正19年（1591）頃に西伯耆の領主となった吉川広家により、湊山に築城が開始されたといわれています。広家は島根県安来市の月山富田城に入りますが、出雲・西伯耆から隠岐に及ぶ領国経営には不便であったため、交通の要衝である米子に着目し、大山を望み、中海を自然の堀とした湊山に近世的な石垣を持つ城の普請を始めました。

慶長5年（1600）の関ヶ原の戦後、城が七割ほど完成した段階で、吉川広家は岩国に転封となり、代わって伯耆18万石の領主として駿河から入った中村一忠により慶長7年（1602）頃に完成したと言われています。慶長14年(1609)に中村一忠が急死し中村家は断絶しました。

その後、慶長15年（1610）に会見・汗入の領主として加藤貞泰（6万石）が美濃国黒野から入城し、元和3年（1617）加藤氏が伊予・大洲に転封した後は、因幡・伯耆の領主池田光政の一族の池田由之が米子城預かり（3万2千石）となりました。寛永9年（1632）に池田光仲が岡山から因幡・伯耆の領主となり、家老・荒尾成利が米子城預かりとなって、以後、明治2年（1869）に藩庁へ引き渡されるまで、代々荒尾氏が城を預かり管理しました。

「米子城修復願」（元禄3年（1690）3月11日）鳥取県立博物館蔵

米子城騒動

家老の誅殺によって巻き起こった湊山（本丸）と飯山に分かれての戦い

慶長8年（1603）11月14日、米子城内において主君中村一忠によって家老、横田内膳村詮が殺害される事件が起きました。これを「米子城騒動」といいます。騒動については、諸説がありますが、主な内容は次のように伝えられています。

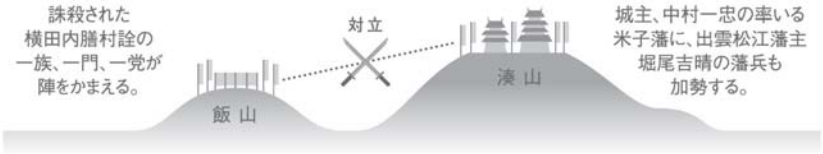
横田内膳正村詮は中村一忠の家老です。村詮は一忠の父一氏の妹を妻にしたことから、一氏の死後一忠を後見し、政治の実権を握っていき、駿府から米子へ移封された一忠に従い、米子の町づくり、伯耆一円の政策に腕を振るいました。しかし、若い一忠側近のねたみを受け、慶長8年（1603）11月、城中で誅殺されました。そのため城内は騒然となり、横田一族は一忠に戦いを挑みましたが、敗れて一族は自刃、滅亡しました。騒動から6年後の慶長14年（1609）に一忠は急死し、跡継ぎがなかったので所領は没収され、中村家は断絶となりました。

一忠は、殉死した2人の小姓、垂井勘解由と服部若狭と共に中村家の菩提寺である感応寺（米子市祇園町）裏山に葬られ、御影堂を建立、3人の木像が安置されました。明治42年（1909）には老朽化した御影堂の代わりに新しく「故伯耆守中村一忠公之墓」が建てられ、また昭和34年（1959）には五輪塔が建立されました。木像は現在、本堂に安置され、墓地とともに市指定史跡となっています。

妙興寺（米子市寺町）には横田内膳村詮の墓碑があり、画像と遺品の木杯が所蔵されています。

中村一忠墓地

横田内膳村詮の墓碑



清洞寺跡

米子城築城の際、中海の沿岸にある巨岩の小島「亀島」を埋め立てて、陸続きの船着場を作り富田城からの物資が船で運ばれたといわれています。現在、湊山公園内に「清洞寺跡」として残る岩と松がその名残です。

米子の2代城主加藤貞泰は父光泰の菩提を弔うため、この島に曹渓院を建て、供養の五輪塔を作り、元和3年（1617）池田由成が城主になると、由成は父母の供養のため、海禅寺を建立し2基の五輪塔を作りました。

海禅寺はその後、禅源寺と改められ、宝永7年（1710）博労町に移され了春寺となりました。

亀島にはその後、荒尾の家臣村河氏が江尾から清洞寺を移して菩提寺としたので、この島が清洞寺岩と呼ばれるようになりました。現在もこの岩の上には3基の来待石製の大型五輪塔が残っています。向かって右が加藤貞泰、中央と左が（左が父由之、中央は母のもの）池田由成が建てたものです。

清洞寺跡

米子城の構造

米子城については、近世の絵図や文献資料がよく残っていて城の構造を詳細に知ることができます。

米子城は、中海に張り出した標高90.1mの湊山頂上の天守を中心に、北の内膳丸、東の采女丸（飯山）を出丸として、湊山のふもとに二の丸，三の丸、御船手郭（深浦郭）を配し、城郭中枢部は中海から水を引き込んだ内堀をめぐらせて防御していました。さらにその外郭には外堀をめぐらし、内堀と外堀の間に武家屋敷を、外堀の外側に町人区を配していました。

天守から見る夕日

米子城関連年表

米子のまちは1467年応仁の乱の時、飯山に砦が築かれる以前に漁師町あるいは港町として成立していました。

応 仁 1 年（1467）
　　～応仁の乱　米子飯山に山名宗之が砦を築く。
大 永 4 年（1524）・・・・5月　尼子経久伯耆に侵入　米子城、淀江、尾高などの城を攻め落とす。
永 禄 5 年（1562）・・・・毛利元就の富田城攻め、因幡、伯耆へも進出。
永 禄 9 年（1566）・・・・富田城陥落。山陰地域は毛利支配下に入る。
元 亀 2 年（1571）・・・・尼子氏再興運動、尼子勝久・山中幸盛因幡・伯耆へ侵攻。
天 正 6 年（1578）・・・・尼子勝久上月城で自刃　尼子氏滅ぶ。この頃の米子城番は古曳吉種。
天 正 9 年（1581）・・・・鳥取城落城、秀吉が伯耆一円を支配。
天正13年（1585）・・・・秀吉と毛利輝元の和睦　八橋以西の伯耆三郡が毛利領となる。
天正15年（1587）・・・・吉川広家（吉川元春の三男）、吉川家の家督を継承。
天正19年（1591）・・・・吉川広家が秀吉から西伯耆、出雲、備後など12万石を認知され、富田城に入るが、居城を米子に変え、山県九左衛門を奉行として築城開始。
文禄1年
～慶長3年（1592～1598）文禄慶長の役（朝鮮出兵）　吉川広家従軍、古曳吉種は朝鮮で討ち死（1592）。慶長3年8月、秀吉死去。
吉川広家、富田城に帰り、湊山築城を監督、米子港、深浦港整備。
慶 長 5 年（1600）・・・・関ヶ原合戦　吉川広家西軍として出陣。
吉川広家、周防国岩国（3万石）に転封、この頃城は7割方完成。
駿河国府中城主、中村一忠（18万石）が伯耆国領主となり尾高城に入る。
慶 長 7 年（1602）・・・・中村一忠、尾高城から完成した米子城に移る。
慶 長 8 年（1603）・・・・中村一忠、家老の横田内膳を誅殺（米子城騒動）。
慶長14年（1609）・・・・中村一忠20歳にて死去、中村家は断絶。
慶長15年（1610）・・・・岐阜美濃国黒野城主加藤貞泰、伯耆国会見・汗入郡6万石領主となり入国する。
元 和 1 年（1615）・・・・大坂夏の陣、豊臣氏滅ぶ。幕府は一国一城令を発布するも、米子城は保存と決まる。
元 和 3 年（1617）・・・・加藤貞泰、伊予国大洲に転封。
因伯領主となった池田光政の一族、池田由之が米子城預かり（3万2千石）となる。
元 和 4 年（1618）・・・・池田由之死去、子由成が米子城主となる。
寛 永 9 年（1632）・・・・池田光仲、因伯支配（32万石）、家老荒尾成利が米子城預かりとなる。
嘉 永 5 年（1852）・・・・四重櫓と石垣を鹿島家の負担により大修理。
慶 応 4 年（1868）・・・・明治維新。
明 治 2 年（1869）・・・・朝廷より米子城返上の命令があった。
明 治 5 年（1872）・・・・米子城山は士族小倉直人らに払い下げとなる。
明 治 6 年（1873）・・・・城内の建物類は売却され、数年後取り壊される。

米子城跡見所マップ

本丸から望む、市街地や大山、中海、日本海の眺望は、今も多くの人々に親しまれています。

①内膳丸（出丸）

丸山に築かれた郭で、二段に配置された細長いーの段郭、二の段郭から構成されています。この郭から本丸に向けて登り石垣を築き、米子城の中海側の防衛線が設けられていました。

②登り石垣

内膳丸から天守遠見櫓にかけて尾根を登るように築かれています。

③水手御門下の郭

平成27年度の発掘調査で発見された郭で、中海側に張り出しています。

④二の丸

湊山北裾の高石垣で囲われた二段の郭です。上段の郭には城主の御殿や武器庫、侍部屋等の重要な建物が置かれていました。入口の枡形虎口と、高さ10m以上の高石垣は迫力があります。

⑤三の丸

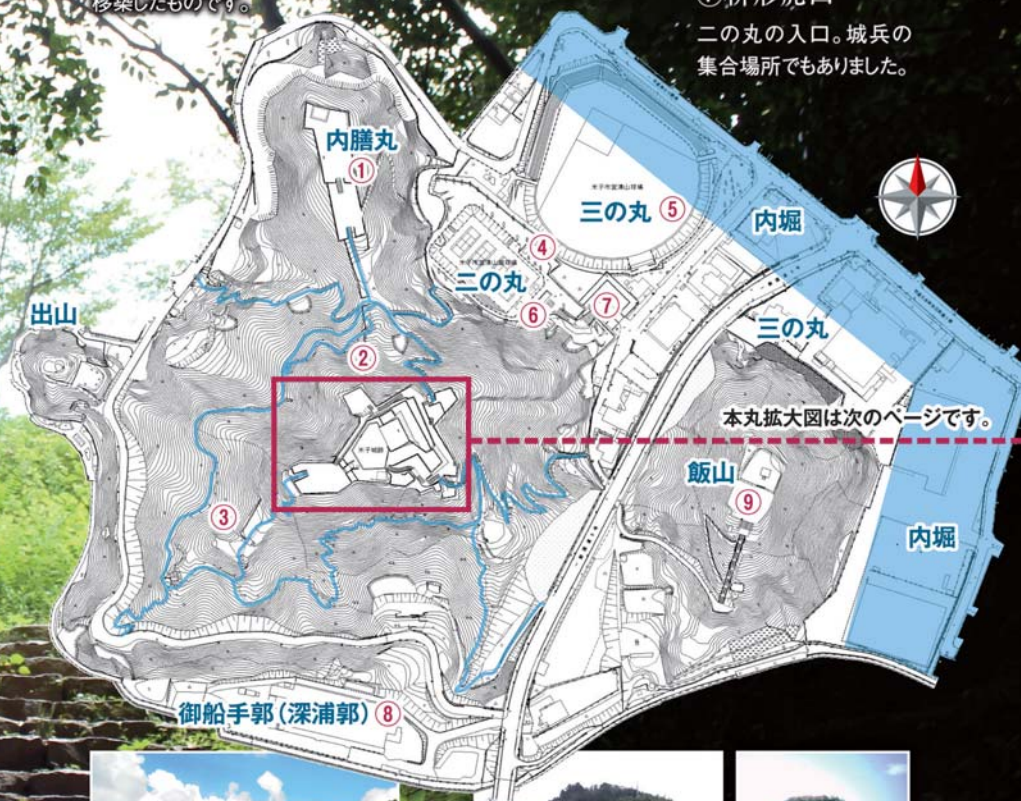
飯山から、湊山、丸山の北側まで巡る、内堀で囲った広い郭で、大手門、搦手門(からめてもん)、鈴門を配しています。番士詰所、作事方詰所、作事小屋、馬屋、米蔵などの施設のほか馬場もありました。

⑥旧小原家長屋門

城下にあった荒尾家臣小原家の屋敷門を移築したものです。

⑦枡形虎口

二の丸の入口。城兵の集合場所でもありました。



⑧御船手郭（深浦郭）

湊山の南山裾の中海深浦に面した郭で、船頭屋敷、船小屋、番人小屋の施設と角櫓が配置されていました。ここには深浦水軍が配備され、海上防備と共に城下町に入る船などを監視していました。

⑨飯山 采女丸

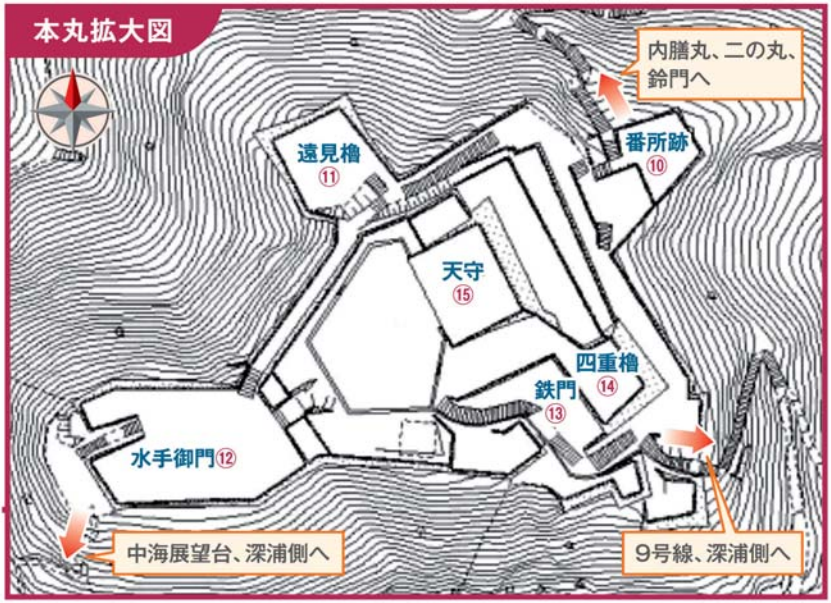
飯山に築かれた独立した郭です。高石垣で囲われた三段の郭で、二段目は帯郭状となっています。

⑩番所跡

本丸の番所がありました。
天守の石垣を間近に見ることができます。

⑪遠見櫓

眼下の中海の眺望と、振り返るとそびえたつ天守台は迫力があります。



⑫水手御門

中海側に張り出した郭から深浦側へ下る道へ続きます。

⑬鉄門跡

ここには、鉄板が打たれた門がありました。両側に迫る石垣が見事です。

米子城跡の魅力

◎戦国時代の特色を残した平山城で、天守の建物は失われましたが、そのほかの石垣や礎石はそのまま残されており、様々な時代の石垣が見られます。

◎登城中に景観の移り変わりが実感できます。木立を抜けるとそびえる天守、歩くたびに石垣の見え方が変わっていきます。

◎天守跡からの360度のパノラマは最大の魅力です。まさに「海を望む天空の城」。城下町から見上げる壮大さと城跡から望む城下町、大山、中海の眺望を満喫できる、わが街の誇り米子城！

⑭四重櫓台

幕末に補修された切接(きりこみはぎ)の石垣が天にそびえます。角に忘れ石があります。

※四重櫓石垣の角に明治時代以後いつの頃からか置かれた石は"忘れ石"と呼ばれています。

⑮本丸

湊山山頂部に高石垣で囲われた郭で、天守郭、遠見郭(とおみぐるわ)、番所郭(ばんしょぐるわ)で構成されています。天守郭には、天守、四重櫓の二つの天守が築かれていました。

米子市街地、大山、中海、島根半島など360度のパノラマが広がり、「海を望む天空の城」を実感することができます。

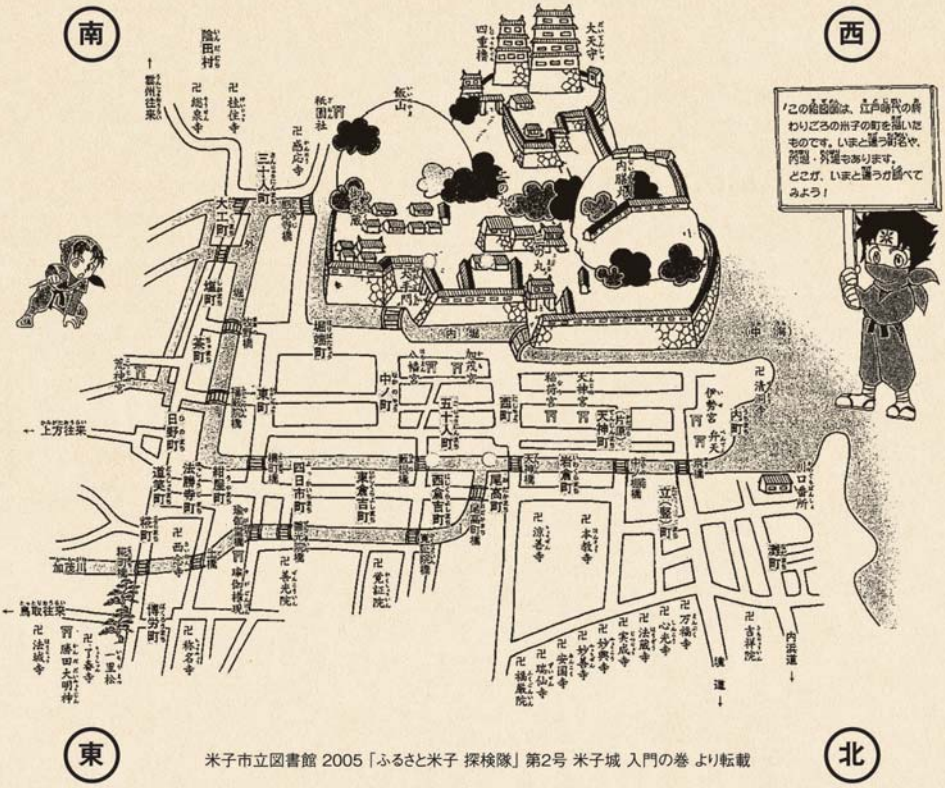
天守閣の礎石

天守からの眺望

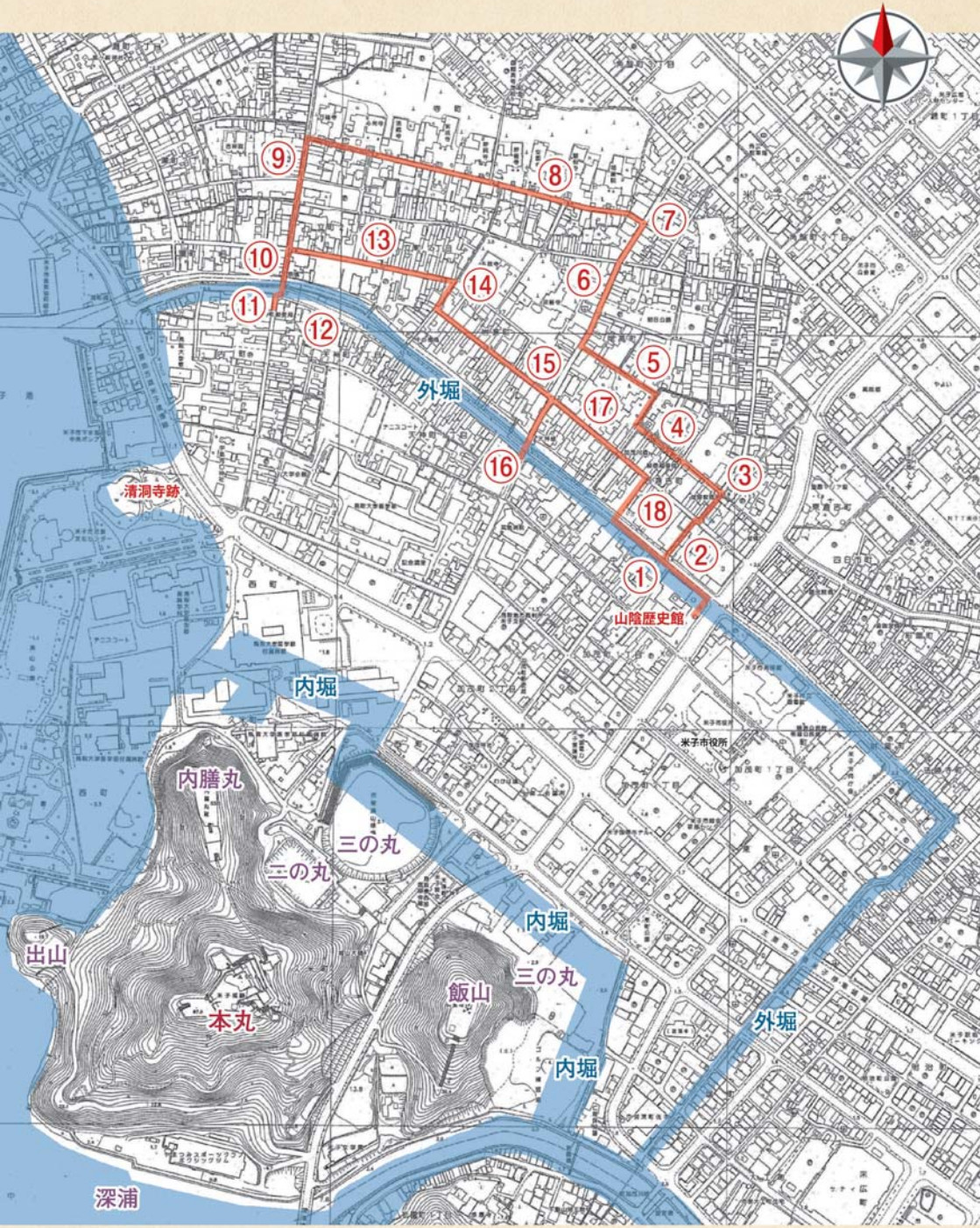
米子城下町について

米子城は、湊山頂上の天守を中心に、北の内膳丸、東の飯山を出丸として、中海から水を引き込んだ内堀と中海で取り囲まれた区画に様々な郭を配置し、さらに外堀をめぐらし、内堀と外堀の間に武家屋敷を、外堀の外側に町人区を配していました。

米子城を中核として、内堀、外堀を中心に形成された城下町は、西伯耆の文化的、経済的中心として繁栄しました。当時おこなわれた城下町や街道の整備は、現在の米子のまちの基礎となっており、そのころの町割や小路などが今もまちのあちこちに残っています。



米子市立図書館 2005「ふるさと米子 探検隊」第2号 米子城 入門の巻 より転載



米子城下町地図（番号は次ページの説明に対応しています。）

①藪根橋
（やぶねばし）

米子城外堀にかかる7つの橋(京橋、中ノ棚橋、天神橋、藪根橋、横町橋、福厳院橋、牧野橋)のひとつでしたが、現在は道路になっています。外堀も現在はほとんど埋め立てられていますが、その形状は残っています。

②鉄砲小路

この小路を抜け外堀に架かる厳根橋を渡ったあたりに米子城の鉄砲足軽が住んでいた五十人鉄砲町があったことからついた小路名です。小路や橋は、見通しがきかないようにカギ形に結んでいました。

③覚証院小路、咲い地蔵

このあたりには江戸時代、真言宗のお寺である松龍寺覚証院があって、富くじなども行われていました。咲い地蔵は、町の活性化の源となる笑顔の人生が送れるようにとの願いをこめて昭和59年に建立されました。

④旧加茂川

米子城の外堀の一部であり、水運の動脈でもあった旧加茂川周辺には商家が集っていました。川に面した土蔵や石段の一部が残っていて、当時の面影が偲ばれます。

⑤坂口邸裏通り

坂口家は、藩政時代に木綿仲買業を営み、家業を発展させました。昭和天皇は戦後すぐの昭和22年(1947)巡幸の際、この坂口邸に宿泊されました。

⑥新小路通り

法勝寺町から岩倉町へと直線的に続く町筋から、尾高町のところで北に曲がった小路です。新小路の奥には藍座がありました。寺町に向かって緩く上り坂になっているのは昔、このあたり一帯が小高い砂丘だった名残です。

⑦寺町通り

寺町通りに面して福厳院、瑞仙寺、安国寺、妙善寺、妙興寺、実成寺、法蔵寺、心光寺、万福寺の9つの寺が並んでいます。米子城の北側を守る陣地の役割があったといわれています。

⑧妙興寺

この寺には、中村一忠の家老で、米子城城下町の整備などに貢献したものの慶長8年(1603)に殺されてしまった横田内膳村詮の墓碑や画像、木杯などの遺品が所蔵されています。

⑨立町通り

立町は竪町とも書かれ、灘町とともに江戸時代以前から栄えた古い町です。米子城から北に伸びるこの通りには多くの商家が立ち並び、弓ヶ浜方面へ通じる浜街道を行き交う人たちでにぎわいました。

⑩京橋

京橋は米子城外堀にかかる最も古い橋です。橋の南側（内町側）のたもとには大きな木戸があり、そこには木戸番が置かれ、鳥取藩からのお触れを掲げる制札場にもなっていました。

⑪後藤家住宅

後藤家は江戸時代に廻船問屋を営んでいた豪商で、寛政期には大型船を何隻も所有し、鳥取藩の米の海上輸送も行っていました。正徳4年（1714）頃の建築といわれる主屋や土蔵などが国の重要文化財に指定されています。

⑫判屋船越家

船越家は江戸時代初期から船の出入を管理する判屋を務め、寛永期（1624～44年）には米子港や加茂川の船方の総支配をしていました。明治30年代に建て替えられた現在の家屋も当時の町家の佇まいを感じさせるものです。

⑬鹿島家

西伯耆一の豪商といわれた鹿島家には、米子城の鯱瓦があります。江戸時代末期の嘉永5年(1852)頃に米子城四重櫓の修理改築を、藩命により肩代わりした功労に対して下賜されたもので、市指定有形文化財に指定されています。

⑭中ノ棚曲り

米子の城下町は江戸時代以前からあった古い町を取り込みながら新たに整備されたものです。その新旧の町の境目が、岩倉町から立町に入るところに、現在もかぎ型の曲がり角として残っています。これが中ノ棚曲りです。

⑮岩倉町、長田茶舗

岩倉町は倉吉から移住してきた人たちによってつくられた町で、主に北前船などで各地から運んできた海産物や乾物などを扱っていました。長田茶舗は明治元年の建築で、典型的な町家造りの特徴がある建物です。

⑯天神橋

旧天神橋は、現在よりも少し下流側にありましたが、昭和4年に現在の場所に架け替えられました。元の場所には天神橋地蔵が残されています。加茂川を引き込んだ外堀沿いの右岸には、物流のための土蔵群が並んでいました。

⑰尾高町、坂口合名ビル

尾高町は、尾高城からの商工業者が移住してできた町です。坂口合名ビルは、坂口家の中核会社の社屋として昭和6年に建てられました。正面にジャイアントオーダー風の付柱を飾る石張りの重厚な建物です。

⑱西倉吉町、加茂川橋

東・西倉吉町は、倉吉城下から移住してきた人たちによってつくられた町です。尾高町から西倉吉町に架かる加茂川橋は水道水を送るための水管橋で、水道の歴史を物語るものとして市指定有形文化財に指定されています。

米子市立山陰歴史館

四重櫓の鯱や米子城天守の模型など、米子城にまつわる歴史資料をはじめ、民俗資料など米子の歴史を物語る様々な資料を展示しています。

- ●入 館 料 常設展無料　企画展・特別展は別途
- ●開館時間 9:30〜18:00(入館は17:30まで)
- ●休 館 日 毎週火曜日又は祝日の翌日 12/29〜1/3
- ●所 在 地 鳥取県米子市中町20

TEL 0859-22-7161　FAX 0859-22-7160
Email：saninrekishikan@dear.ne.jp
HP http://yonagobunka.net/rekishi/

National Historic Sites
Yonago Castle Ruins in the Sky
Commanding a fine view of Lake Naka-umi

Yonago Castle was originally constructed on the hill known as Minato-yama, located in what is now the central area of Yonago City. The castle was unique and magnificent in that, unlike other castles in Japan, it had two towers, a major one on top of the hill which had five stories, and a minor four-story one alongside the other. As such, it was referred to as "the finest castle in Sanin Area"; however, most of the structure is now gone, and only the remaining stone walls can still remind us of the castle's former glory. In 2006, the remains of the Hon-maru, the donjon, and the Ni-no-maru, the secondary bailey, were designated as national historic sites.

History of Yonago Castle

During the Warring States Period, what was subsequently known as Yonago Castle had been constructed to serve as a small fort under the orders of Yamana Masayuki from 1467 to 1487. It was not until around 1591 in the last years of the Warring States Period that the fort began to be renovated into a castle, with the surrounding stone walls in Minatoyama constructed under the command of Kikkawa Hiroie, lord of the western part of the Hoki province.

At that time, Hiroie's main residence was Gassan-toda Castle, where Yasugi City in Shimane Prefecture is now, which served as the administrative center from which he ruled his territories that spanned over Izumo, western Hoki, and Oki province. However, it was getting hard for him to rule from this location, so he focused on Yonago as a strategic hub that led to every territory of his. Thus, for the construction of his castle he chose the site of Minato-yama, which had Mt.Daisen as a natural shield, Lake Naka-umi as a natural moat, and early modern period stone walls.

The construction did not go smoothly due to ongoing conflict, and by 1600, when the decisive Battle of Sekigahara ended the Warring States Period, Hiroie had only managed to finish 70% of it before being relocated to another domain. In 1602, the successor of Hiroie, Nakamura Kazutada took over the construction of Yonago Castle and finally completed it. Unfortunately, in 1609 Kazutada died a sudden death, thus ending the feudal bloodline of the Nakamura family. Afterwards, in 1610, Kato Sadayasu was put in charge of Yonago Castle, but shortly after that, in 1617, he was ordered to administer other domains, and was replaced by Ikeda Yoshiyuki.

In 1632, Ikeda Mitsunaka commanded his chief retainer, Arao Naritoshi to administer Yonago Castle; thereafter, the Arao family took charge of Yonago Castle for about 240 years until 1869 when the Meiji government established the prefectural system and abolished the traditional administration through feudal domains.

The Riot in Yonago Castle

In 1603, Nakamura Kazutada, feudal lord of Hoki-Yonago domain, assassinated his chief retainer, Yokota Naizennosho Muraaki. In anger at the assassination, the Yokota family rebelled against the Nakamura family. The incident is referred to as the "Riot in Yonago Castle."

Yokota Naizennosho Muraaki, the chief retainer of Nakamura Kazutada, was credited with completing " Muraaki became the guardian for his lord Kazutada and held real political power over the domain (Muraaki married a sister of Kazuuji, father of Kazutada). He had followed his lord Kazutada and demonstrated his ability in town planning and adopting policies all over the Hoki area since Kazutada was transferred from Sunpu domain to Hoki-Yonago in 1601. However, some young aides to Kazutada were envious of Muraaki and incited young Kazutada to assassinate Muraaki. Thus, on November 14, 1603, Muraaki was killed in the castle.

The Yokota family challenged Kazutada and raised a riot against him. Kazutada could not suppress the riot, so he asked the Horio family who were lords of the neighboring domain, to send troops. Eventually, the Yokota faction collapsed through self-destructive internal politics. There are several stories left about the riot, but ironically, 6 years after the riot in 1609, Kazutada died suddenly. Since he had no heir, his territories were confiscated, and the Nakamura family line died out.

Kazutada was buried with the two of his kosho (staff), Tarui Kageyu and Hattori Wakasa, as both committed suicide upon hearing of the death of their lord. So were they (now in Gion-cho, Yonago City) belonging to the Nakamura family, where a hall was built to worship Kazutada, Kageyu and Wakasa with three wooden statues of them inside. Instead of the old and decaying hall, the "Tomb of late Nakamura Kazutada, lord of Hoki" was constructed in a graveyard behind Kanno-Ji Temple in 1908, and in 1959, a memorial tower was erected. Today, the tomb and the three wooden statues are designated as a municipal historic site and a property respectively, and the latter can be seen in the main hall.

Seido-ji Temple Ruins

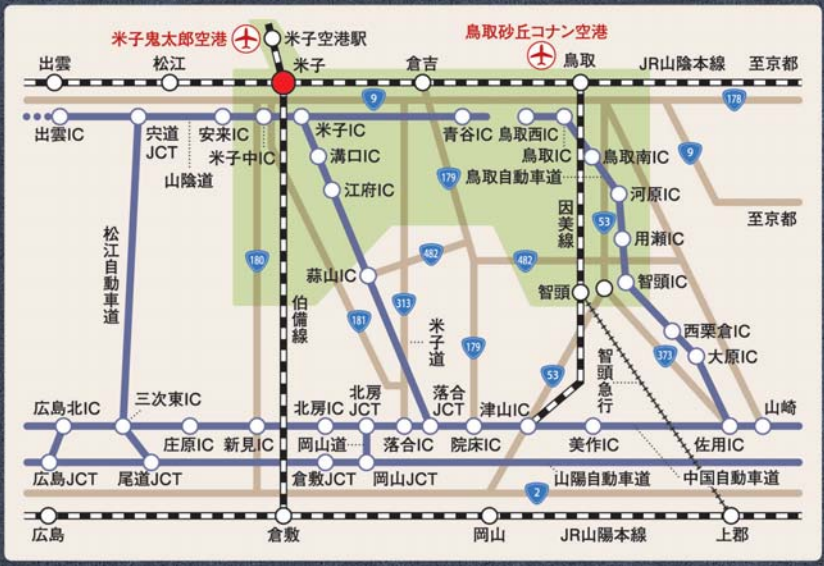
While Yonago Castle was being constructed, the water between the coast of Lake Naka-umi and a huge rock island called "Kame-Sima" was reclaimed so that supplies could be easily carried from Toda Castle to the wharf. Today, rocks and pine trees are seen on Seido-ji Temple Ruins in Minatoyama Park and they remind us of the days when the island had not been reclaimed.

On the island, Kato Sadayasu, the second lord of the castle, built a temple called Sokeiin Temple in order to console the soul of his father Mitsuyasu, and erected a memorial tower (See the picture on the right). In 1617, Ikeda Yoshinari, taking charge of the castle, built Kaizen-ji Temple and there erected two memorial towers to console the souls of his parents. Some years later, Kaizen-ji Temple changed its name to Zengen-ji, and in 1710, to Ryoshun-ji when a flood caused it to move to where Bakuro-machi is now. Afterwards, the Murakawa family, a vassal of the Arao family, moved Seido-ji Temple as their family temple from Kofu to Kame-sima Island. This is the reason why this island has been called "Seido-ji Iwa." (Iwa means rock) On the rocks there still remain three memorial towers "gorinto" made of kimachi stone (mined only in Shimane Prefecture).

Structures of Yonago Castle

The center of Yonago Castle was defended as follows: the donjon was located on the top of Minato-yama in the center, as well as Naizen-maru (named after Yokota "Naizen" Muraaki; "maru" usually means a compartment surrounded by stone walls) in the north, and Uneme-maru (on a hill called Iino-yama) in the east; the secondary bailey, the third one, and Ofunade (or Fukaura)-kuruwa were placed on the foot of Minato-yama; all the compartments were surrounded by an inner moat, the water of which was drawn from Lake Naka-umi; moreover, on the outside of the inner moat was a town of samurai residences surrounded by an outer moat, on the outside of which was a town of traders and artisans.

米子城跡へのアクセス



◎飛行機で・・・・・・・・・・・ 東京（羽田空港）→ 米子鬼太郎空港（約75分）
◎タクシー・バスで・・・・・・・ 米子鬼太郎空港 → 米子城跡（約25分）
境線で 米子空港駅 → 米子駅（約30分）
お車で 山陰道米子中ICより約10分（湊山公園駐車場）

【米子城跡まで】
・米子駅から枡形入口まで徒歩約15分
・米子市循環バス（だんだんバス/150円）で「湊山公園」下車、徒歩5分。
・お車で「米子駅」から約5分。「湊山公園無料駐車場」をご利用ください。
登り口から山頂の天守まで20分ほどかかります。（トイレは山頂にありません）

この冊子は米子松蔭高等学校、米子松蔭高等学校インターアクトクラブの協力を得て、米子東ロータリークラブが作成しました。

お問い合わせ 米子市教育委員会文化課 〒683-8686 鳥取県米子市東町161番地2
TEL.0859-23-5438　FAX.0859-23-5414　Email bunka@city.yonago.lg.jp（平成28年11月第1刷）